

スダジイの林を訪ねる

氷見市立北部中学校 中川 定一

はじめに

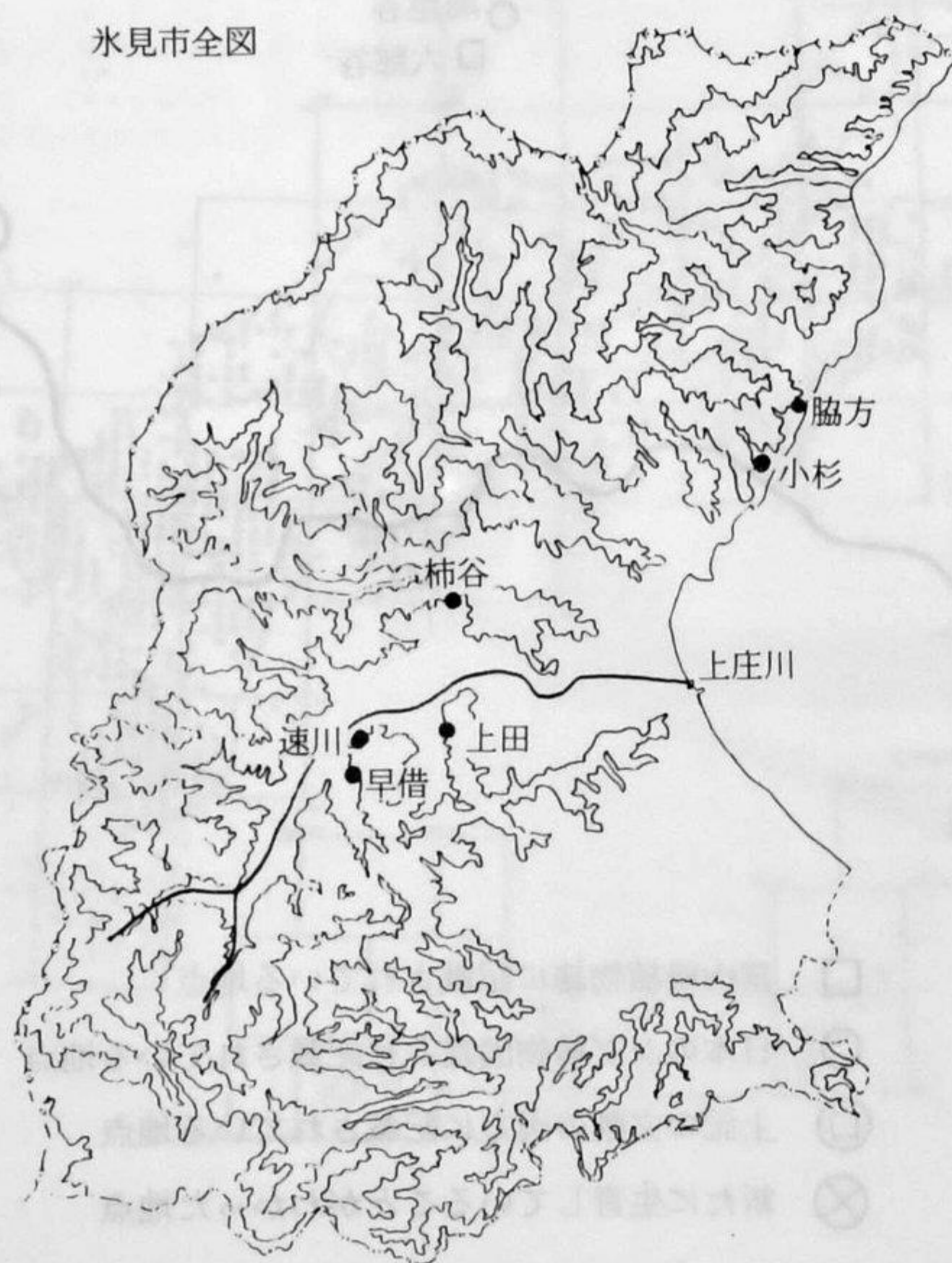
- 氷見市の自然は豊かである

高山ほどの魅力的な美しい花、雷鳥、カモンカ、国蝶に価する動植物こそいないが、蛇が島がありシイの林からブナ帯に連なる動植物がいる。62年も多くの山々を尋ね歩いた。能登の猿山岬、白馬付近の湿原、金剛堂山、立山、加賀の奥獅子吼、尾鷲の山、そして氷見でも多くの草花に出会った。シイの林、アカガシの森、シロダモ、ケヤキの純林、カンボクの木などである。

- シイの林をしらべる

何回か氷見市の照葉樹林を研究してみれば面白いという勧めをうける。しかし、興味は湧

氷見市全図



いてこなかった。でも、急速に進む道路建設、ゴルフ場造成、造林、植林の波が市を襲う、重要な植物群落と巨大な樹木は残さなければならない。微力ではあるが記録にとどめ世に訴えなければと思うようになった。

- シイの林は研究されているか。

氷見市のシイの森で研究されているのは海岸部の一部ではなかろうか。山手の上田の森も有名だが今は自然倒木などでかつての面影はない。上庄川一帯の集落、触坂、中村、早川（ニヶ所）、柿谷（ニヶ所）など文献にもない。

- 調べるにあたって

① 『日本植生誌 中部』をみると、シイの林はヤブコウジースダジイ群集に属する。その群集であるが、富山県西部丘陵地においては、イヌシデ変群集に区別されると簡単に記述されている。付表では、富山県の資料はなく石川県の資料ばかりである。

ヤブコウジースダジイ群集の下位単位として、イヌシデ変群集、典型亜変群がみられる。実際氷見市には、イヌシデ、ゴンズイ、コウゾが多い。典型亜変群がまた、コシノカンアオイ亜変群集、アカガシ亜変群集などに細分されると、さて氷見市のものはと疑問が湧く。

② 『富山県の植生 付表』では、氷見市のシイの林と朝日町宮崎鹿島のシイの林は明らかに異なる。これが、コシノカンアオイ亜変群集かと納得する。しかし、見慣れた氷見市のものは、あまりにも小さな林である。植生調査素表では森の全体像が浮かんでこない『富山県の植生 付表』を持って現地に行く。

③ マイコンを植物研究にと始めてしたのは、五年前であった。いまだ植物リストぐらいで役立たず。ASCII Presse / 88XT（社名、ソフト名）で植物表の作成、抜きだし、並び替え、結合、更新、追加、複写などに大変役立った。

④ 市の有志から巨木、重要な植物群落など、市指定の文化財にすべきだ。という話がでる。木の大きさ、林の大きさも一部調べる。



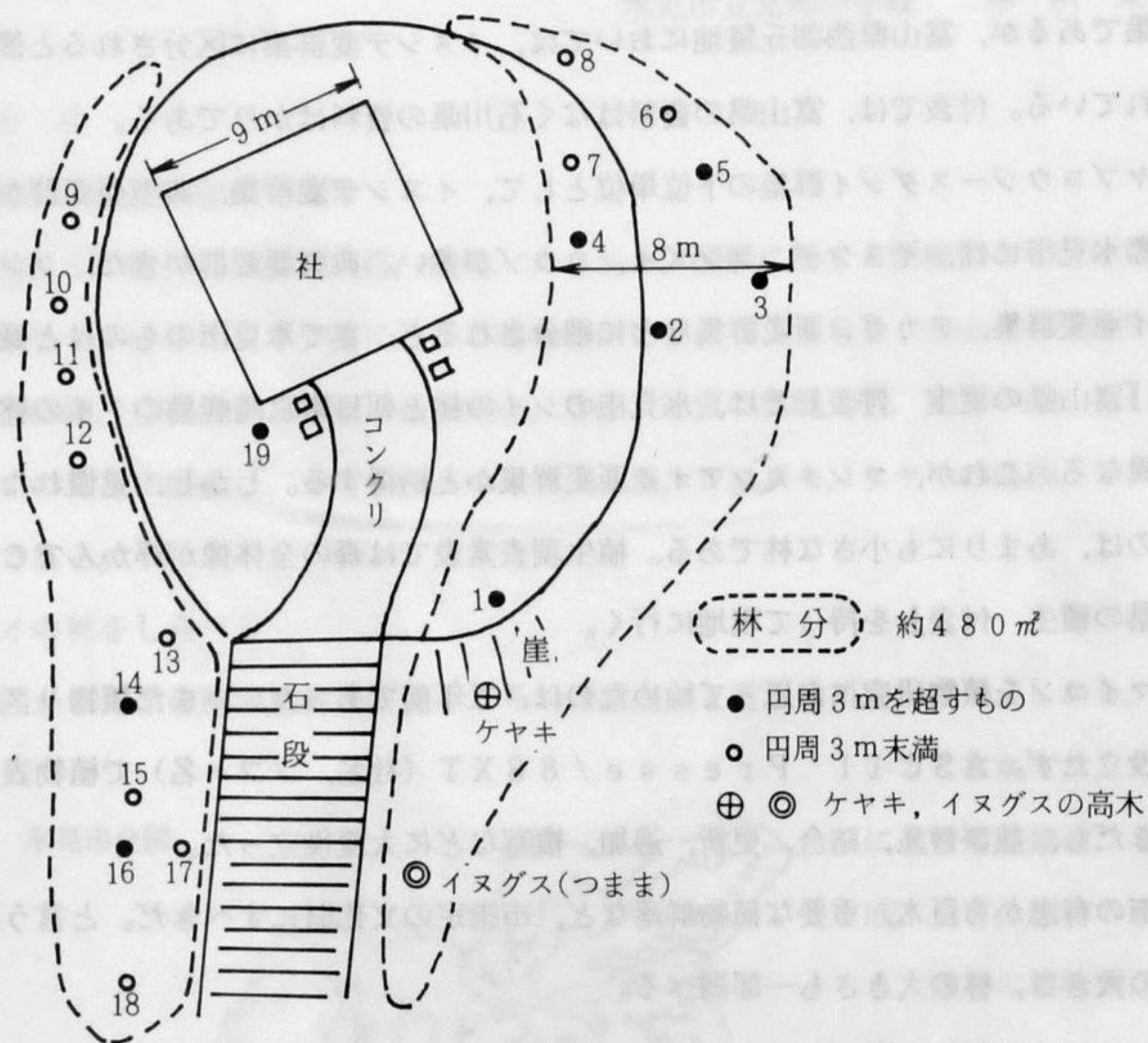
今倉神社のシイ 氷見市最大のまわり



谷口家の持山、中腹はシイ

1. シイの木林の調査

(1) 脇方今倉神社

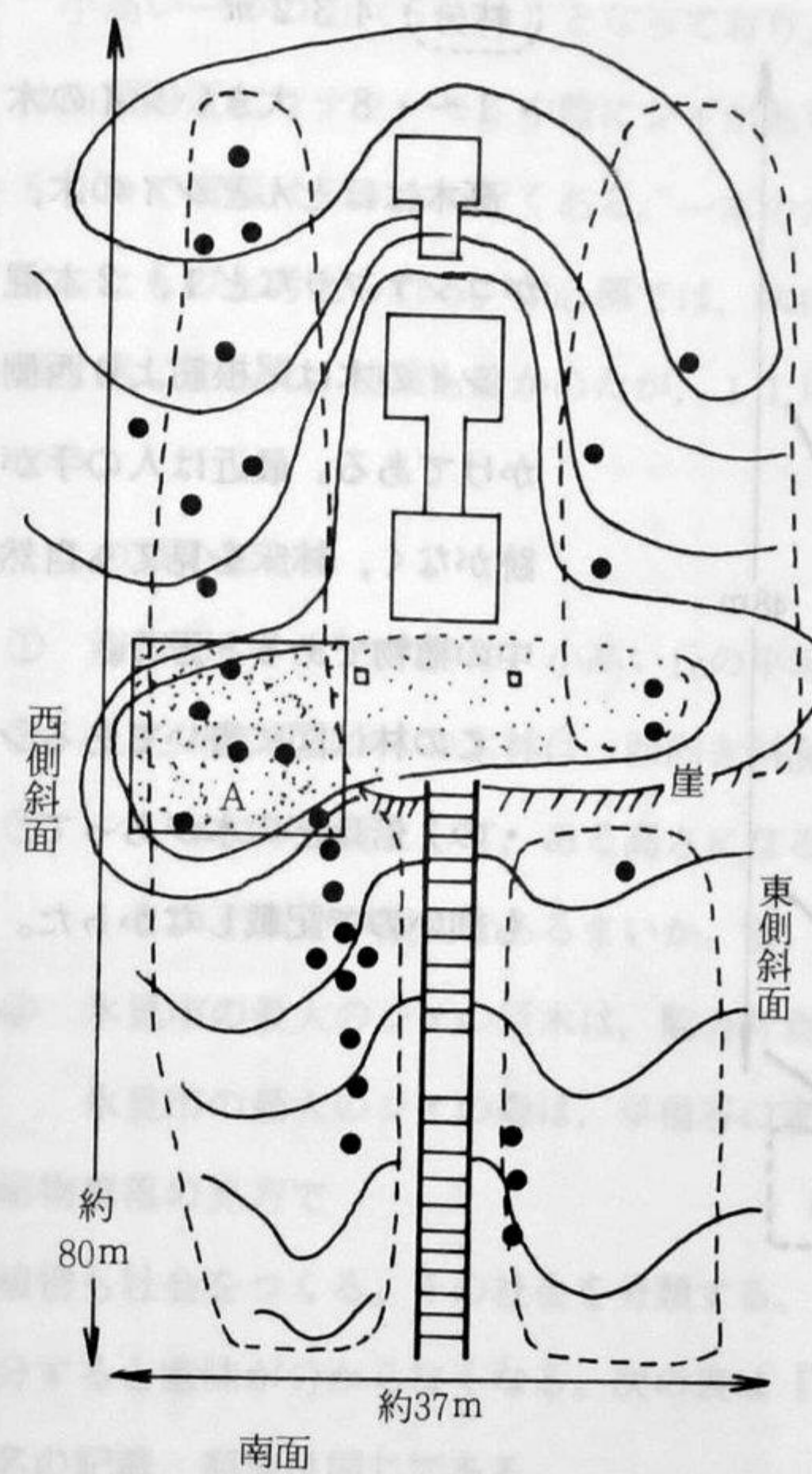


今倉神社林のスダシイの円周(胸高)を測定する

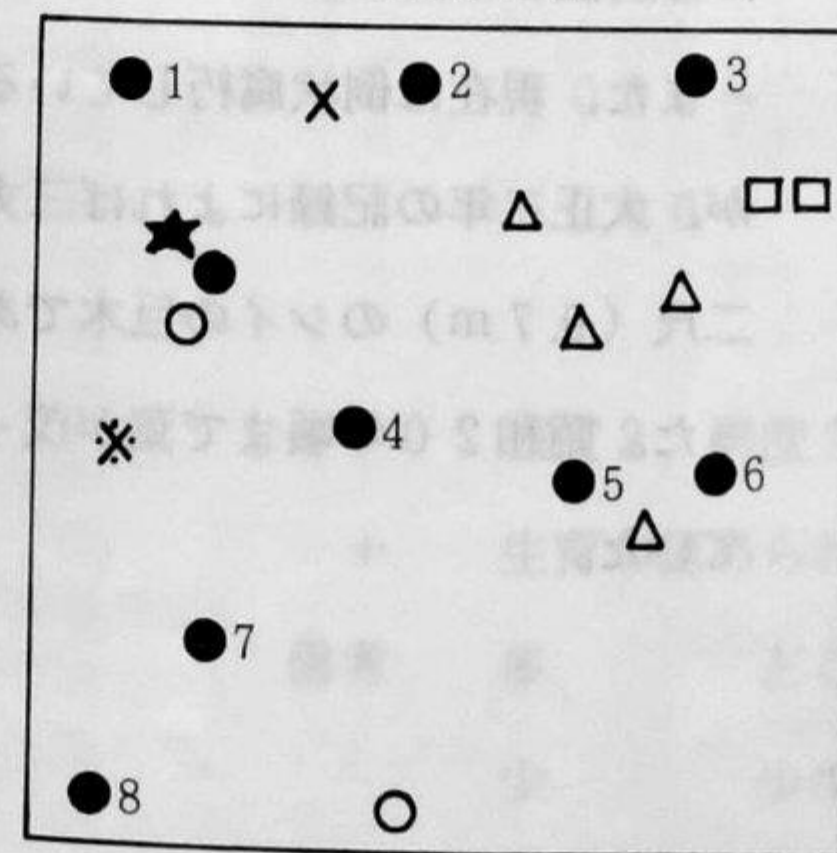
調査62年9月15日
中川, 野寺

1	3 m 90		11	2 m 15	
2	8 m 60	断面 扁形, 神木	12	1 m 13	
3	3 m 10		13	1 m 77	
4	4 m 00		14	3 m 23	
5	3 m 00		15	2 m 80	
6	2 m 30 1 m 35	胸高で2又 3 m 65	16	2 m 20	?
7	1 m 83		17	1 m 90	上半分引き裂けている
8	2 m 40		18	3 m 20	
9	2 m 30		19	3 m 10	
10	2 m 00			つまま 1 m 10	けやき 2 m 00

(2) 速川神社



A部分の林



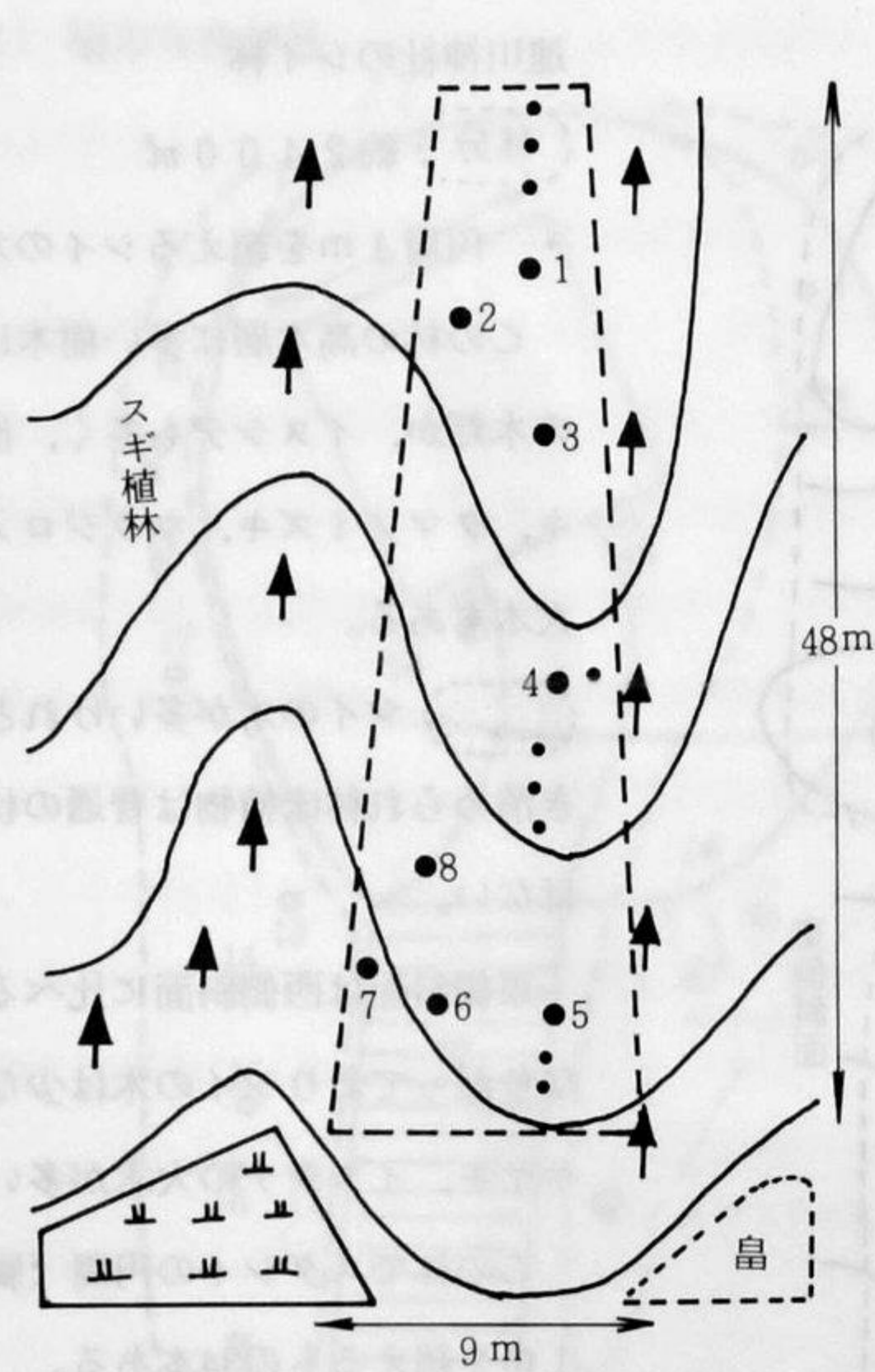
- シイ
- ソヨゴ
- △ ヤブツバキ
- スギ
- ★ シキミ
- ※ ヒサカキ

A部分のシイの円周

1	1 m 42
2	1 m 65
3	1 m 75
4	1 m 42
5	1 m 20
6	1 m 05
7	1 m 10
8	1 m 23

調査 62年9月22日

(3) 柿谷地区の神社跡



林分 432㎡

・1～・8 大きいシイの木
高木はほとんどシイの木、少ないがコシアブラなど1, 2本混じる。
シイの木は尾根筋より西側斜面にかけてである。最近は人の手が入った跡がなく、林床を見ても自然の山の中の植物であると思う。
この林は図に書いてあるシイの木の2倍ほどの木があって、いずれも細いので記載しなかった。

シイの円周

1	1 m 5 6
2	1 m 4 2
3	1 m 3 0
4	1 m 0 2
5	1 m 2 0
6	三つに分かれている 35cm, 1 m 10, 1 m
7	二つに分かれている 1 m 35, 1 m 85
8	三つに分かれている 60cm, 90cm, 1 m 03

(氷見市在住、県文化財審議委員 橋本芳雄先生調べ)

(4) 上田神社

上田神社のシイの木の最大なもののは周囲3m85cm。
また、現在は倒伏腐朽しているが、大正二年の記録によれば三丈二尺(9.7m)のシイの巨木であった。昭和20年頃まで葉が茂っていた。

(5) 早借谷口家の持ち山

小高い一つの山(50m)となっており、土砂崩れ注意地区に指定されている。遠景では山頂付近にコナラ、モミ中腹にシイがあり山裾は竹林である。シイの林の斜面幅10～50mで横幅は500m近くある。一本の木は根元で幾つかにわかれ、伐採したあとの再生したものと考えられる。中心部では、木は高く茂り暗い。そのため、林床植物はなく特異な感じがした。枯葉も確かめたが、11月の調査でもあり、林床植物なしという自信はない。

○ この項のまとめ

- ① 海岸部のシイの木林は、小高い丘の平坦地の陽地にある。
- ② 上庄川流域のシイの木林は、西向き斜面にある。(上田, 柿谷, 中村, 速川2)
- ③ シイの木の性質として、ある高さになると伸びないで幹が太くなる。幹の大きさは、10mぐらいが限度であるまいか。雷、洞状の朽ちくの被害等の自然死がある。
- ④ 氷見市の最大のシイの巨木は、脇方今倉神社の8m60(胸高)である。
氷見市の最大のシイの森は、早借谷口家の持ち山で研究の余地が多い。

2. 植物群落の見方で

植物も社会をつくる。その社会を分類する。大きな目で見ると納得する所が多い。しかし細分すると意味が分らなくなる。次の表は『富山県の植生 付表』を中心に作成した。植物名の記載、順等は同じである。

番号	1000～	ヤブコウジースダジイ群集及び群団の標徴種
	2000～	下位単位区分種
	3000～	オーダーとクラスの標徴種(ヤブツバキ)
	4000～	随伴種
	5000～	氷見と宮崎での一回出現種
		(番号は並べ替えに便利)

++ 被度2, 群度2以上
+ 生育が認められたもの (以上現地確認)

備考 多 どこにでもみられる
少 少ない
希 一日歩いて見あたらない
海沿, 山際, 山, 谷の順に山奥に入る

シイ林 (表2, 1)

No	番号	植 物 名	小杉	脇方	宮崎	中村	速川	柿谷	備考
1	1001	スダジイ	++	++	++	++	++	++	山際
2	1002	ベニシダ	+	++	++	+		+	多
3	1003	シロダモ	++	+	++	++			多
4	1004	ヤブコウジ	++	++	++	++	++	++	多
5	1005	イタビカズラ	+	+	++				海沿
6	1006	ジャノヒゲ	++	+	+	+			少
7	1007	キズタ	++	++			+		多
8	1008	ツルグミ	+	++					多
9	2001	モチノキ	++	++					少
10	2002	ヒメアオキ	++	++		+	+	+	多
11	2003	ヤブラン	++	++					多
12	2004	ユズリハ	+	+					海沿
13	2005	ツタウルシ	+	++					多
14	2006	ケヤキ	+	++					多
15	2007	トラノヲシダ	+						多
16	2008	アカガシ			++				少
17	2009	キッコウハグマ	+		++				多
18	2010	コシノカンアオイ			++				無
19	2011	アオキ			++				多
20	2012	ヒメカンスゲ			++				山
21	2013	サイコクミツバツツジ			+				山
22	2014	アキノキリンソウ			+		+		少
23	2015	アズキナシ			++				多
24	2016	イワガラミ			+				少
25	2017	コハウチワカエデ			+				山
26	2018	サワフタギ			+				無
27	2019	ヤマボウシ			+				谷
28	2020	ナルコユリ			+				少
29	2021	ムラサキマユミ			+				希
30	2022	ヤワラスゲ			+				希
31	3001	ヒサカキ	+	+	++	+	+		多
32	3002	ヤブツバキ	++	++	++		++		多
33	3003	タブノキ		++	++				海沿
34	3004	テイカカズラ	++	++	++		+	++	多
35	3005	イノデ			+				多
36	3006	ムベ	++						海沿
37	3007	オクマワラビ	+						海沿
38	3008	オモト							希
39	3009	ウラジロガシ	+		+				多
40	3010	ヤマイタチシダ	+						谷
41	3011	トベラ							多
42	3012	クマワラビ			+				海沿
43	4001	ムラサキシキブ	+		+	+	+		多
44	4002	イヌシデ	+		+				多

シイ林

No	番号	植 物 名	小杉	脇方	宮崎	中村	速川	柿谷	備考
45	4003	サルトリイバラ	+				+	+	多
46	4004	シンガシラ	+		+	+	+	++	多
47	4005	イチヤクソウ	++		+	+	+		多
48	4006	フジ	++		+	+	+		少
49	4007	スギ	++		+	+			多
50	4008	コシアブラ	+		+		+	+	多
51	4009	ヤマウルシ	+		+				多
52	4010	ツルアリドウシ	+		+	+	+		多
53	4011	サンショウ	+		+				多
54	4012	ゴンズイ	+		+				多
55	4013	ガマズミ	+		+				海沿
56	4014	ノブドウ	+		+				多
57	4015	ハイイヌガヤ	+		++				多
58	4016	ツルリンドウ	+		+			+	多
59	4017	ツルマサキ			+				少
60	4018	コマユミ	+		+				多
61	4019	チゴユリ	++		+				多
62	4020	シュンラン	++		+				多
63	4021	オオバギボウシ	+						多
64	4022	ナキリスゲ	+						谷
65	4023	アワブキ	+				+		少
66	4024	チャボガヤ	+		++				谷
67	4025	ヤダケ							多
68	4026	クマノミズキ			+				海沿
69	4027	チマキザザ			++		+	+	多
70	4028	ウラジロノキ			+				少
71	5001	コバノガマズミ				+	+		多
72	5002	ツルニガクサ							多
73	5003	ケチジミザザ							多
74	5004	ヒノキ					+		多
75	5005	ヒメカナワラビ							海沿
76	5006	オオバノイノモトソ							谷
77	5007	タチツボスミレ							多
78	5008	タラノキ							多
79	5009	ヤマヤブソテツ							多
80	5010	サイハイラン							谷
81	5011	ミゾシダ							谷
82	5012	ナツグミ				+			多
83	5013	コタニワタリ							疑
84	5014	ヤブニッケイ							谷
85	5015	ホオノキ							少
86	5016	ヤマアジサイ							多
87	5017	リョウメンシダ							疑
88	5018	ジュウモンジシダ							多

シイ林

No	番号	植物名	小杉	脇方	宮崎	中村	速川	柿谷	備考
89	5019	コシノホンモンジス							多
90	5020	エゴノキ							海沿
91	5021	ハイシキミ							疑問
92	5022	アオハダ		+					少
93	5023	ヒトリシズカ							多
94	5024	アケビ							多
95	5025	ササバギンラン							稀
96	5026	エゾユズリハ							山
97	5027	ミヤマガマズミ							多
98	5028	ヤマツツジ							多
99	5029	ウワミズザクラ							多
100	5030	ミヤマカンズゲ							少
101	5031	サジガンクビソ							多

○ この項のまとめ

- ① 1000～のヤブコウジースダジイ群集及び群団の標徴種はいずれの林にもある。しかし、2000～の下位単位区分種となると氷見地方のものと宮崎のものは明らかに違う。氷見地方にはコシノカンアオイ、サワフタギは無くヤワラスゲは珍しい。
- ② 3000～のオーダーとクラスの標徴種（ヤブツバキ）が少なくなるのは当然であると思える。4000～の随伴種と5000～の一回出現種は環境が変われば変わる。
- ③ 上庄川流域のシイの木林の新出現種 アカマツ、トキワイカリソウ、オクノカンズゲ（柿谷）、タガネソウ、ハイイヌツゲ、ハリガネワラビ（中村）、アカシデ、ウリハダカエデ、キンキマメザクラ、コブシ、ソヨゴ、ワラビ（速川）
- ④ 随伴種と一回出現種はあまり意味がないような気がする。海沿部の林の面積は小さく森とは言えない。人為の影響が大きく本来ある植物とは思えない。

場所	小杉	脇方	中村	速川	柿谷	谷口家
出現種数	47	18	17	24	13	1?
面積 m ²	500	480	450	2400	423	15000

3. スダジイヤブコウジ群集の下位区分種と氷見・能登の生育状況

日本植生誌 — 中部付表

中部地方のヤブコウジースダジイ群集総合常在度表より作成 表(3, 1)

a. アラカシ亜群集 アラカシ（高岡市国泰寺に植栽） マンリョウ（盆栽） クロガネモチ （生垣に使用） クスノキ（羽咋等で庭木に多い）	a ₁ アリドウシ変群集 アリドウシ … （三重県九鬼神社でみる。） ジュズネノキ … （まだ見ていない。） センリョウ … （盆栽） シロバイ … （まだ見ていない。） コジイ … （まだ見ていない。）
	a ₂ 典型変群集 a ₁ , a ₂ の植物を含まない
	a ₃ アセビ変群集 タカノツメ … （穴水、頼成山でみる。） リンボク … （まだ見ていない。） コシダ … （氷見市では稀） モチツツジ … （尾鷲で見る。） アセビ … （加賀で見る。）
b. 典型亜群集 アセビ （庭木、自然のもの加賀で見る） ソヨゴ（氷見に多い） ネジキ（松林に多い） サイゴクミツバツツジ （氷見でも分布にむらがある。）	b ₁ アセビ変群集 サカキ … （氷見地方に多い） ヤブムラサキ … （能登穴水に多い） シャシャンボ … （能登島、穴水でみる） ヒメユズリハ … （海岸に多い。磯辺神社） ヤマモモ … 加賀でみる
	b ₂ b ₂₁ マルバマンサク亜変群集 マルバマンサク … （氷見の山間部、多い。） ウスギョウラク … （獅子吼高原で見る。）
	b ₂₂ アカシデ亜変群集 アカシデ … （氷見・石川県境に多い。） チヂミザサ … （湿地・路傍）

シャシャンボ (能登島, 穴水に多い)	ア	アクシバ … (松林に多い) ハイイヌツゲ … (雑木林)
	リ	b ₂₃ マルバグミ亜変群集 マルバグミ … (ウバメガシ群団のもの蛇島の記載あるが疑問種)
	ド	フモトシダ … (海沿より谷筋)
	ウ	ニシノホンモンジスゲ … (いたるところ)
		b ₂₄ タカノツメ亜変群集 タカノツメ … (前記)
	シ	サネカズラ … (かつては氷見にあった。)
変		ユアジサイ … (氷見にない。)
群		b ₂₅ サワフタギ亜変群集 サワフタギ … (氷見にない) ヤワラスゲ … (氷見に稀)
集		ムラサキマユミ … (氷見に稀)
		b ₂₆ カスミザクラ亜変群集 カスミザクラ … (氷見の山間部) コシノホンモンジスゲ … (いたるところ)
		b ₂₇ ウラジログアシ亜変群集 ウラジログアシ … (谷・川筋) コシノカンアオイ … (氷見になし) サワフタギ … (氷見になし) ナルコユリ … (海沿部)
		b ₂₈ 典型亜変群集 b ₂₁ ~ b ₂₇ を含まない
	b ₃	イヌシデ変群集 イヌシデ … (氷見に多い。) ユズリハ … (氷見の海沿部) オクマワラビ … (氷見に多い)

	トウギボウシ … (氷見の海沿部)
b ₄	オオミスミソウ変群集 オオミスミソウ … (氷見にない) コシノカンアオイ … (氷見にない) キバナイカリソウ … (氷見にない)
b ₅	典型変群集 b ₁ , b ₂ , b ₃ , b ₄ を含まない

・日本植生誌 — 中部付表 ヤブコウジ—スダジイ群集より 群集の分類表を作成
(この付表の資料はほとんど石川県)

表(3, 2)

典型変群集	ツルアリドウシ変群集
コシノカンアオイ亜変群集	典型亜変群集
マルバマンサク亜変群集	タカノツメ亜変群集
典型亜変群集	典型群
アカガシ亜変群集	サカキ群

○ この項のまとめ

- ① 氷見のシイ林を構成種から強いて分類すれば、イヌシデ変群集に入れればよいと思うが、石川県と接する氷見市によく似たシイ林がないのは、氷見市のもとは特異な存在か、あまりにも林の面積が小さいかである。 — 今後の研究の課題となる。 —
- ② 早借のシイ林を見てから構成種の多い林は下位区分をしても意味がない気がする。
- ③ 宮崎のシイ林は表(3・2)のコシノカンアオイ亜変群集である。

4. 終りにあたっての感想

- ① 群集をあまりにも細かく区分すると、何か分類のための分類になるような気がしてならない。この分野での研究は別な面からの発想で見直したほうがすっきりする。
- ② シイの森は年々、自然の影響・人為作用で衰微するのではなからうか。いかに保護・再生させるか考えるべきである。



上田, 倒木による枯死 新芽がでていない。



小杉 伐採 新芽がでている。

・参考資料

- 植物生態の観察と研究 沼田 真編 (1978)
- 日本植生便覧 宮脇 昭 他2名 (1978)
- 日本植生誌 中部 宮脇 昭編 (1985)
- 富山県の植生 富山県 (1977)
- 静岡県植物誌 杉本順一 (1984)
- 静岡県の植物群落 近田文弘 (1981)
- 千葉県植物誌 千葉県生物学会編 (1975)
- 富山県植物誌 大田・小路・長井 (1983)
- 七尾市植物目録 小牧 旌 (1969)

なお、植物生態学の立場から本多先生、分類学の立場から小牧先生に多くの助言・指導をいただきました。氷見の橋本先生にも山の案内・同行を願い感謝いたします。

安房峠周辺に見られる針葉樹林の2林分 (コメツガ林, カラマツ林) について

富山南高等学校 佐藤 卓*

1. はじめに

1985年7月27日～28日に、富山県生物学会主催の研修会が長野県南安曇郡安曇村白骨温泉で実施され、それに参加した時、安房峠を通り、上高地乗鞍岳スーパー林道に入り、白骨温泉に向かった。この道中、安房峠から白骨温泉にかけて、コメツガ、トウヒ、カラマツなどを主体とするすばらしい針葉樹林が観察された。筆者は富山県内にみられる森林群落の構造や更新について興味を持ち、調査を行ってきた。そこで、富山県内に見られる針葉樹林群落(立山下ノ子平, 大日岳大日平, 薬師岳 1800m 三角点付近)と比較検討するための資料を得ることを目的に、この安房峠周辺にみられる針葉樹林を調査した。その結果の概要を報告する。

2. 調査地の概要

安房峠(標高1812m)は飛騨山脈の南部、焼岳(2455m)と乗鞍岳(3026m)の間に位置し、樹高10m～15mのコメツガやトウヒを中心とした針葉樹林が見られる。しかし、これより上部ではダケカンバが多くなり、高山草原へと推移している。

上高地乗鞍岳スーパー林道は、安房峠の長野県側で国道158号線から分岐し、白骨温泉を経て乗鞍岳に続いている。この林道の障子川瀬沢付近からコメツガやトウヒの林に変わってカラマツ林が多く見られるようになる。

そこで、林道の分岐点付近のコメツガを主体とした針葉樹林と白骨温泉付近に見られるカラマツ林を調査林分とした。調査林分の中で樹高が高く、林冠が閉鎖している場所を選び調査区を設けた。調査区の位置は図1に示した。ABOU-1は標高1600m、安房山の東斜面で、林道から谷側へ約80m入った、コメツ

図1 調査林分の位置



* 939-05 富山市水橋の場195